

寺報 善巧

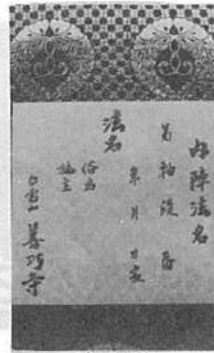
発行

〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善巧寺
☎宇奈月(07656)(5)-0055

寺
ごみ
七月

一日 お講 当番 音沢
一四日 一六日(中)
～ 永代祠堂会 陳講(以外
二〇日) は午後一時

故人をご縁にお寺に参り、おかげさまで生かされているよろこびを味わいましょう。講師はなじみの里村了学師。なお、十六日午後のお座では、内陳法名の「おひもとき法要」をつとめさせていただきます。有縁の方は是非お参りを。



二三日 うらやま日曜学校
いよいよ夏休み。海で、山で、体をきたえ、そして、お寺の学校で、やさしい心を育てましょう。



上棟なった門徒集会所正面玄関、奥にみえるのが書院 6月28日うつす。

永代祠堂会

講師 里村了学師

七月十四日より二十日まで、
十六日(お講)以外は午後一時より

言い古された言葉ですが、「光陰矢の如し」。昨年、此の寺報に同じ題で、拙文を物してからもう一年になります。三法要六年計画も、三年目に入り、工事の槌音を耳にし乍ら、此の原稿を書いて居ります。

御存知のように祠堂会は、善巧寺の門徒全体の法要です。どこの家にも亡くなられた方々があり、御仏壇には、その法名があるでしょう。

善巧寺の本堂には、中央に宮殿があつて、阿弥陀如来が尊置され、右側の厨子には、見真大師の御影、左側には鏡如上人が、そして余間には、聖徳太子、真宗七高僧尊像、更に、前住の絵像、前坊守の院号法名が掲げられて居ります。

古い文書、正式には、本願寺蔵「木仏の留」には、元和九年の頃に、越中浦山村善巧寺に、木仏安置を許可する旨の記載があります。

真宗末寺に、木仏が安置されたのは、越中では、慶長六年の願海寺が最初であり、それから元和に移って、善巧寺は、大体四十四、五番目に当たっています。例えば、鎌倉時代製作の古来より所有されている本尊は、そのままの古いものであり、善巧寺の本尊木仏は、元和年間、京都本願寺お抱え仏師の製作によるものです。兎に角、長

祠堂会を迎えて

い歴史を持つ善巧寺の本尊木像の尊置されているお内陣に今年の祠堂会から初めて内陣法名が掲げられることになりました。そして、その横には、明教院僧鎔師の絵像が掲げられます。

仏前を荘厳して、厳修される昭和五十三年度の善巧寺祠堂会法要は、いわば、装いを新たにして、全門徒の参列のもとに、今年も、賑々して営まれます。本寺報に、別掲の如く、一週間の間、勤修されます。

梅雨から梅雨明けにかけてつとまる祠堂会も住職である私にとつては、三十回以上になります。

お参りの御門徒衆の顔ぶれも、此の三十年の間に、大変な変わりようです。その間の日本社会の変革の態様も御存知の通りです。併し、娑婆がどのように変化しても、絶対に変わらぬものがあります。それは、仏法です。親鸞聖人の有難いみ教えであり、それを伝承して来た私達真宗門徒の連綿と続いて来たまごころです。その伝統とお念仏の響きが、今年も、梅雨空の鬱陶しさを吹き飛ばして、善巧寺の本堂に、反映することを期待して、祠堂会御案内に代えます。

雪山 俊之

にぎやか うらやま ぜんぎようじ

三法要記念の教化事業は、この春で二年目を迎えて、ようやく地に根を下ろし、いよいよにぎやかさを増してまいりました。仏の子を育てようと昨年夏に開校した「うらやま日曜学校」は四月に新入生を迎えて、いまでは生徒が百人近くになりました。四月末の「花の初まりり」は、そのこともたちの協力で六万個のチューリップが飾られ、縁日も出たりして境内は大にぎわい。壮年層のキモ入りで六月に行われた初の「野休み落語会」も超満員のお客さまで本堂は笑いの渦。そして聞法の場合―お講も今年はさらに充実して、蒲山善巧寺はますますご法義繁盛といったところです。心あたたまるふれ合いの場に遠い門徒の方々も、ご縁を結んで、ぜひのお越しを。



☆スクスク

育つ 仏の子

ちっぽけなよろこびもみんな味わうと何倍にも何十倍にもなるものです。「うらやま日曜学校」をはじめ、それを感じます。

みんなでとなえるお念仏。朝の歌、らいはいのうた、恩徳讃の合唱。ひとかけらの小さなおやつ。そして紙芝居やおはなし…どれをとっても、自分の家でのよろこびの何分の一か何十分の一しかないはず。ところ



☆縁日も出て

にぎやかに

がみんな味わうと、そのよろこびが大きくひろがってゆくのです。

六月からは六年生がおつとめを、五年生がおやつ世話、と、自分たちですべて出来るようになりました。仏の子はスクスクと育つてきています。



☆野休み落語会

花のかがりがいっぱい。初参式をうけることもたちもおじゆずや人形をもらってニッコリ。おじさんやおばさんたちが出してくれたコンニャクやフーセンや輪投げの縁日も大好評で、お寺には、こどもたちの元気な笑い声が絶えませんでした。

高座にローソク、入場料はおさい銭という古式豊かな「うらやま野休み落語会」は、夢を語る会(別名雲をつかむ会)の壮年層のお世話で初のお目見えとなりました。

六月十日のよる七時、雲

よろこび ますます おらが寺

板がコンコンコンと鳴り、拍子木がチョンチョンと鳴って始まり始まり。

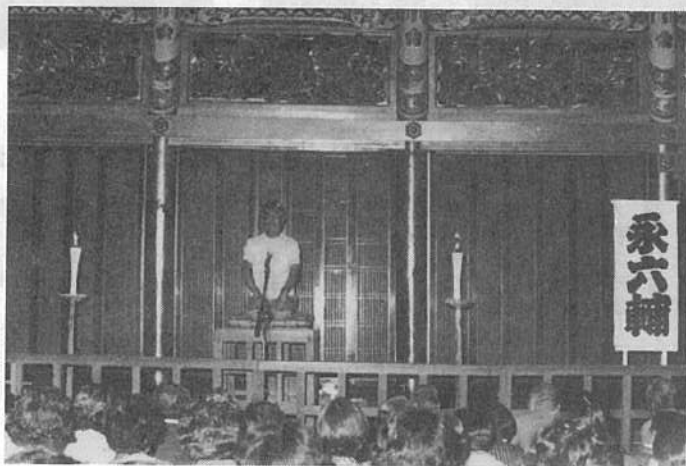
ご存知 永六輔さんが文化と文明、知恵と知識をきわだてて軽妙にわたしたちのハラをえぐり、入船亭扇好さんが「子ほめ」の一席。そして真打ち入船亭扇橋師匠が「文七元結」



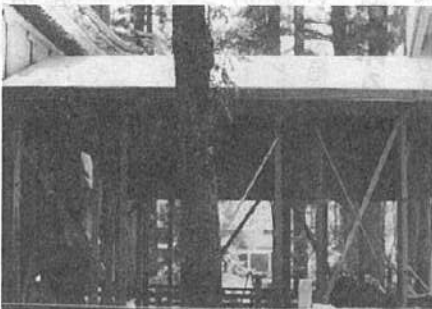
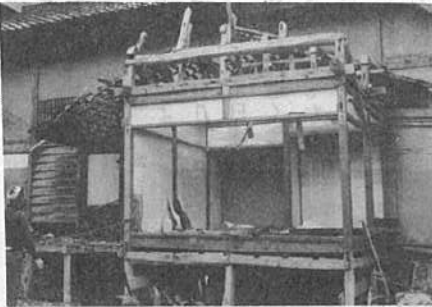
の人情話をじっくり聞かせ、おまけに寺の若ハンが「前座」の説教を聞かせるなど、盛り沢山のプログラム。

本物の落語をはじめて聞くお客様、入善、黒部、音沢、下立、それに九州からもかけつけて、ざっと三百五十人の超満員。笑いころげて、ザルにさい銭投げ入れてあつという間の二時間余り。

楽しいでした。にぎやかでした。



書院・文庫



離れ・廊下・庭



高は、
くー
ツチ音
のこよろ
のこよろ
のこよろ

三法要

- ・宗祖 700回忌
- ・御誕生 800年
- ・明教院 200回忌

寺
ごよみ

建設日誌

- 4・17 渡り廊下取壊し 大工さ
- 4・18 渡り廊下・御殿取壊し
- 4・19 御殿取壊し
- 4・20 ショベルカー地ならし
- 4・21 レッカラー車、切った杉を
- 4・22 レッカラー車、庭の杉、境
- 内隅の杉、けやき伐採

- 4・23 材木、製材所へ
- 4・24 大工さん木づくり
- 4・25 庭地ならし、花樹植えか
- 4・26 庭地ならし
- 4・27 材木墨打ち
- 4・28

- 5・1 鉄入れ式 大工さん、音
- 5・2 沢講参詣者参列
- 5・6 離れへの廊下取壊し
- 5・11 午前中配管、若栗土建下
- 5・12 午前中伐採した木の始末
- 午後墨打ち
- 大工さん二人 墨打ち
- 夜 若栗土建下見
- 廊下跡地ならし
- 5・13 廊下跡地ならし
- 5・14 廊下跡地ならし
- 5・15 廊下跡地ならし
- 5・16 廊下跡地ならし
- 5・17 廊下跡地ならし
- 5・18 廊下基礎
- 5・19 廊下基礎
- 5・20 廊下基礎、セメント
- 5・21 廊下基礎、石、セメント
- 5・22 廊下、離れの基礎、セメ
- 5・23 廊下、離れの基礎、セメ
- 5・24 廊下、離れの基礎、セメ
- 5・25 廊下、離れの基礎、セメ
- 5・26 廊下、離れの基礎、セメ
- 5・27 廊下木組み、屋根
- 5・28 廊下木組み、屋根
- 5・29 廊下木組み、屋根
- 5・30 廊下木組み、屋根
- 6・1 廊下瓦、庭石
- 6・2 入善土木へ代表者三人
- 入善土木より来院 防火
- 設備注意
- 造園一段落 書院基礎

門徒の茶所・集会所



六月十九日 曇のち雨。

此処数日、三十度以上の真夏日が続く。朝は五時には、明るくなるし、熱心な大工さんは、五時前から仕事にかかっている。最近、目覚めが早くなり、大工さんと朝食前の四、五分の雑談を交わすのが日課になって了う。

今日は、下立一区から、上げ法事十人。七回忌と十三回忌の二人の法要。観無量寿経を上げる。御主人の七十有歳は、部落の善巧寺門徒三十戸の中で、最年長になったと感慨深げに述べ。

午後から待望の雨になって、先日植え換えたばかりの羅漢樹の新芽が、息づいているよろこびの声が聞えるようだ。手入れを怠っているの、あわれな姿になっているさつきの刈り込み。

それでも、一鉢は、見事な開花ぶり。書斎に持ち込んで、これから何日間か、楽しく観賞させて頂くことにする。

久しぶりの一日在宅。たまった仕事を片づけて、あとは、読書三昧。

六月二十日 快晴

若院の運転で魚津地裁へ。調停委員の仕事の仰せつかつて、もう十数年になる。

今日は、実の兄弟の争い。双方の言い分を聞き乍ら、何時も感ずるのは、人間のどうしようもない物慾のしがらみである。でも、判事殿のお智慧を拝借して、急転解決。他人



住職日記

事ながら、気がいい。

終わると、桜井へ引き返して、ロータリーの会合。今日は、「ロータリーの原点」をテーマとしたパ

ネル・ディスカッションのパネラーの役をつとめる。手帳の綱領の部を、昨夜、読み返して見たが、職業を通じての社会奉仕なるものが、此の私に、どこ迄理解されているか疑問である。

続いて、富山ステーション・ホテルの会合に出席。県教育委員会恒例の元教育委員の懇談会。私達にとっては、十数年昔の懐かしい同僚の久しぶりの同

窓会といった感じだが、現役の諸君にとつては、肩の張る会合であるかも知れぬ。例によって、机上には、書類がうす高く積まれている。曰く「本年度教育要覧」「富山県教育委員会重点施策」「資料 児童生徒の非行防止と性教育の推進について」等々。兎に角、教育と云う仕事の現場は、相変わらず大変な様子である。色々と御馳走になって、帰宅は終電車になる。多忙な一日だった。

工半ば

初夏の空より鈍の音

大いなる機械入り来る

初夏の寺

離れ瓦の下修理

6. 3

書院基礎

6. 6

書院基礎囲い板取はずし

6. 7

大工さん 9時まで材木運び

6. 8

大工さん書院

6. 9

書院夜9時まで

6. 10

書院棟上げ、茶所基礎

6. 11

書院屋根

6. 13

茶所基礎、廊下杉板張り

6. 14

茶所基礎、書院瓦、廊下

6. 15

茶所基礎

6. 16

茶所基礎

6. 17

茶所基礎

6. 18

茶所、玄関基礎、廊下ト

6. 19

タンはり

6. 20

廊下電気配線、茶所基礎

6. 21

廊下床板張り、茶所基礎

6. 22

玄関基礎

6. 23

玄関基礎、廊下天井張り

6. 24

玄関基礎、廊下天井張り

6. 26

茶所棟上げ

7. 3

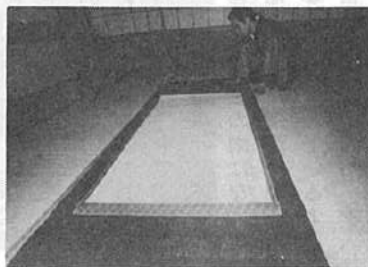
女子手洗着手、事務所着



9. 30 完成予定

7 月
16 日

申し込みはお早めに



ときもひもお名法陳内

三法要を記念して開設された特別懇志・内陳法名の「おひもととき」は、いよいよこの七月十六日の永代祠堂会（しどつきよう）で行われること

ひと口お作法

お仏飯

◇お仏飯（ぶつばん） 富山では「おぼけはん」といいますが、正しくはお仏飯です。仏さまに毎朝お供えするもので、炊きたてのごはんの「お初穂」を、報恩感謝の心持ちでさし上げます。もちろんアマタさまは「法喜をもつて食とす」と示されてある通り、ごはんを食べられることにはありませんが、わたしたち凡夫は、ごはんのおかげで命がえらえ、めでたき仏法を聞くこと

になりました。これまでに特別懇志（一口五万）を納められた方の祖先の法名は、新しくつくられた大法名軸に記載され、東側の余間にはじめてかけられるわけで、当日は午後から、その法名軸前で法要が営まれ、有縁の方々にお焼香をしていただくことになっております。

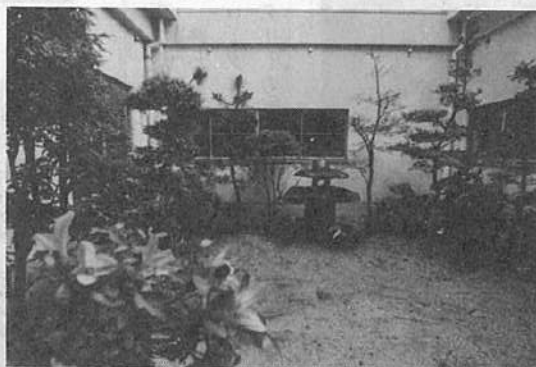
なお、施主には今後、法名軸に記載の故人の祥月命日には、毎年寺からご案内をして、内陳での一座経をつとめさせていただくことにしています。ご希望の方は「おひもととき」の法要に間に合うようなるべく早目に申し込み下さい。

ができたのですから、仏さまにそれをそなえ、おつとめのあとそのお下がりをお願いだいて仏祖の加護をよろこぶわけであります。盛り方は「蓮華形」（れんが いけい）といって、ハスの花のつぼみのように盛り上げます。なお盛り方にはもう一つあって「蓮実形」といい、ハスの実に模して盛りつけるもので、お東はこの盛り方です。蛇足ですが富山でいう「おぼけはん」は「お仏器」（おぶつき）つまりお仏飯を盛る器からなまったものではないかと考えられます。

秋の旅

いよいよ今年は、明教院師のゆかりの地へ出かけます。お生まれになった水橋の渡辺家。勉強なされた上りの明光寺。そして吉崎御坊を経て、ご本山。明教院の法脈

をつぐ若院の実家、常見寺。さらに師が住職をされたことのある大阪の祐貞寺。そしておまけはNHK「黄金の日々」でおなじみの堺の町へと考えています。十月下旬、二泊三日の予定です。おこころづもりを……



中庭がミドリいっぱい

庫裡の中庭が美しくなりました。四月に寺参りにこられた三日市の大敷助雄さんが、なくなられた奥さんの法事をご縁に、と、庭木持参で一日がかりでこしらえて下さったものです。ドウダンツツジ、モクセイ、モミジ、マツ、ツバキなど四季折々に観賞できる木を十本。それに雪でいたんだ灯ろうも修復して、ホッと心のなごむ中庭にして下さいました。

お講においでの方たちも、とてもよろこんでおられます。大敷さん、ありがとうございます。

真夏の夜の一滴布教大会に

恒例になりました夏の法座です。今年は八月四日午後七時から。下立愛本、析屋のおつとめ勉強会の方のお正信偈のあと、お話は、富山布教団の先生方が一堂に会して宗教・仏教・浄土・真宗をわかりやすく語って下さいます。昨年のように、寺の長持がカラになるほどのお泊り客を待っています。五日は午前五時から、おつとめと早朝法話。若い方もおさそい合わせの上、ぜひどうぞ。

みんなそろってお参りしよう

合掌

ブーンブーン雪どけの四月、三法要記念の建設事業は、まず境内の杉の木の間引くチェーンソーの音でスタートを切りました。ギギギギつづいてレッカーが庫裡と本堂をつなぐ廊下、老朽御殿、離れをつなぐ廊下をとりこわします。

ゴーゴーとダイナミックに動くブルドーザー、そしてポークレーン、ショベルカー、ミキサー車、そして、いま、ノコギリと、かなづちの音が、朝の五時から夜の九時まで、たのもしく境内いっぱい響いています。

この建設のツチ音は、雑音でもなく、騒音でもありません。じつは三法要をお迎えしようとする善巧寺門徒全員のよろこびの鼓動なのです。寺参りの老人が「ようこそ、ようこそ」と声をかけると、「やらせてもらいますちや」と大工さんたちが額の汗をぬぐいながらニコリ笑い返します。ありがたいことです。手を合わさずにはおれない毎日です。

